

# E-AGILITY Conference 2011 開催/協議会発足のご挨拶

## 「ユーザーと開発者の どまんなかを行きたい」

2011年5月31日

E-AGILITY協議会

準備委員 [幹事]

株式会社 シナジー研究所

依田智夫

# E-Agility協議会がスタートしました。

- なぜ今この協議会が必要なのか
  - 何を目指すのか
  - 誰のための協議会か
  - これからの活動予定
- などについてお話しします。

事務手続き、仕組み作りなど、まだまだ不十分ですが、ユーザーと開発者に有益な情報を届けたいという思いでとまかくスタートです。

## なぜ今この協議会が必要なのか(背景)

- 今日、IT(情報技術)の果たす役割の大きさは誰もが認めるところとなった。
- いまやITは、単なる業務効率化、省力化の手段ではなく、ビジネスや人々の生活に新しい価値や喜びをもたらすことができるようになった。
- そのような力を持つITを俊敏に活用すれば、日本の閉塞状況を打破し、産業に活力と競争力をもたらすこともできるに違いない。
- しかし、現状で俊敏なIT活用への障害は大きく、ITのユーザー側にも開発者側にも課題・問題点が少なからず存在している。

# 問題は何か

## ● ユーザー側の問題点

- 業務知識はあるが、要求・要件をまとめる力が足りない。
- IT(テクノロジー)の知識がない。
- 開発プロジェクトのリスクを知らない。
- プロジェクトをまとめる人材・経験者が足りない。

- **骨太のシステム構築戦略が不足。**

## ● 開発者側の問題点

- IT(テクノロジー)の知識はあるが、要求・要件をまとめる力が足りない。
- 業務知識が足りない。
- 開発プロジェクトのリスクを知らない人もいる。
- プロジェクトをまとめる人材・経験者が足りない。

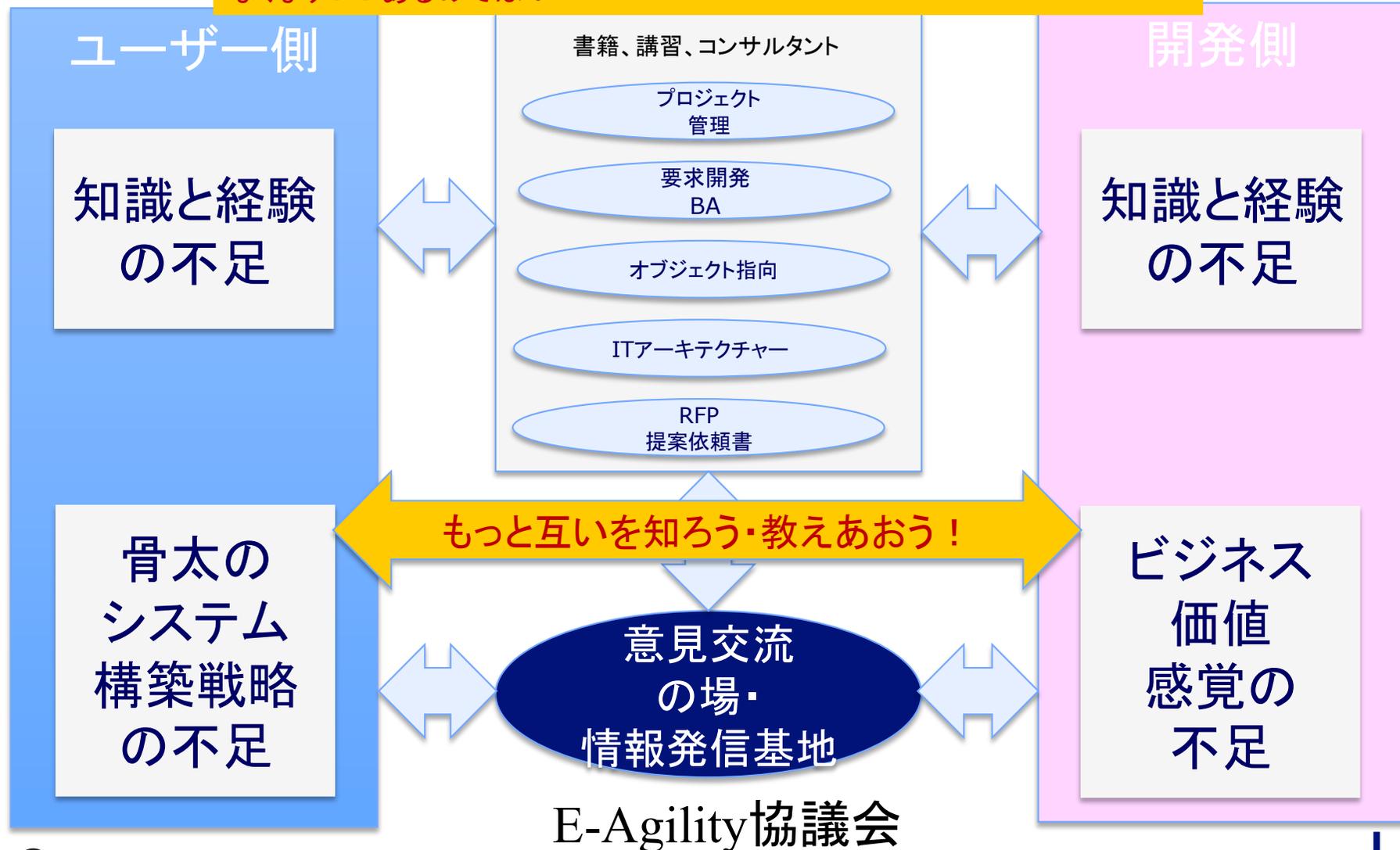
- **何がビジネスに価値をもたらすかの感覚が不足。**
  - 原因は、重層的な請負構造

# 骨太のシステム構築戦略

- アプリ構築方法：  
パッケージか手作りか？
- 開発プロセス：  
ウォーターフォールかアジャイルかどれでもないか？
- 活用リソース：  
外注化か内製かオフショアか？
- 契約  
請負か準委任か？
- インフラ構築方法：  
クラウドかオンプレミスか組み合わせか？
- クラウド利用形態：  
SaaSかPaaSか????

# 問題解決策としてのE-Agility協議会

ユーザーと開発者のよそよそしいおつきあいはそろそろ限界であり、意味もなくなりつつあるのでは？



# E-Agility協議会が目指すもの

- 骨太のシステム構築戦略やシステム成功事例に関する情報交換の場とコンテンツを提供し、俊敏な企業情報システムの構築を応援する。
- パッケージシステムに代わり、コアドメインにおける手作り促進のための情報提供を行うことで、ITによる企業競争力アップを応援する。

## これからの活動予定

- E-Agilityカンファレンス
  - 目標年4回
  - 基本的にユーザー企業側からの情報提供の場とする。
- 勉強会
  - 月例？
  - 基本的に開発側、ベンダー側、コンサル側からの情報提供の場とする。
- 記事執筆、書籍出版
- FACEBOOKファンページ、グループの運営

# 準備委員

- 長沢 智治 (日本マイクロソフト株式会社)  
林 衛 (株式会社アイ・ティ・イノベーション)  
三井 伸行 (株式会社戦略スタッフサービス)  
中山 嘉之 (協和発酵キリン株式会社)  
松本 聡 (データインパクト/DAMA日本支部)  
畑 秀明 (日本アイ・ビー・エム株式会社)  
永瀬 美穂 (株式会社ディアスクエア)  
上田 雅美 (株式会社 匠BusinessPlace/株式会社アネゴ企画 )
- [幹事]  
依田 智夫 (株式会社シナジー研究所)  
牛尾 剛 (株式会社匠BusinessPlace)  
長瀬 嘉秀 (株式会社テクノロジックアート)